

## 「全鍍連」 2019年 10月号 いきいき地域

三重県鍍金工業組合 中山 敏 (旭鍍金(株) 代表取締役社長)

「私の愛する日本で一番短い名前の町・津（ツ）」



私の町津市は三重県の県庁所在地で、漢字で書いても、仮名にしても一文字で表さ

れ、他に例のない市です。行政の中心であると共に、三重大学、県立美術館、同・博物館『みえむ』などを擁し、県内文化の中心都市でもあります。

津は古くは藤堂高虎侯の津藩 22 万石の城下町として栄え、『伊勢は津で持つ津は伊勢で持つ』とうたわれたように伊勢神宮の玄関口として栄えました。

現在工業に関しては、特に戦後の復興期以降、パナソニック、日本鋼管津造船所（現・ジャパンマリンユナイテッド他）などの金属加工業の下、私の会社旭鍍金株式会社もその流れの中で、金型業者、プレス業者と共に中小企業群を形成している状況です。三菱コンビナートを擁する四日市市や、ホンダを中心とした鈴鹿市には後塵を拝していると言わざるを得ませんが、街中の空気は穏やかで、山あり海ありの自然豊かな住みやすい街となっています。特に山間の榊原温泉は清少納言も逗留したといわれる名泉です。また周辺にはゴルフ場も多く、楽しく観光できる所です。

食も豊富で、魚は伊勢湾の新鮮な前ものをはじめ、イセエビ、アワビなど伊勢志摩からの海産物がスーパーなどに並び、肉は県内随一の精肉店が美味しい松阪肉を揃えてくれています。お酒は残念ながら伊勢志摩サミットの乾杯酒で有名になった隣接する鈴鹿の『作（ザク）』伊賀の『半蔵』松阪の『滝自慢』には及びませんが、おいしい地酒には事欠きません。デパートも地元資本の老舗『津松菱』が頑張っていて、物品販売ばかりではなく付属の美術画廊では陶芸・絵画展など常時開催し地域の文化発展に力を注いでいます。特に陶芸は北大路魯山人と並ぶ陶芸家『川喜田半泥子』出生の地として特に力を入れているようです。

津のもう一つの自慢は三重県の中で一番世界に近いことです。私は明日から中国の子会社へ出張する予定です。朝 7 時に津のポートターミナル『津なぎさまち』から高速船で『中部国際空港セントレア』へ渡って、香港経由で中国本土へ入国します。津からセントレアまでの所要時間は 45 分、1 時間おきに利用できます。まさに三重県と世界を結ぶ最も短い窓口です。地方都市でこのような利便さをもった市はそんなに多くはないと誇りに思っています。